

紙面法話

人と人との つながり



▲小林昭磨さん

昨年2月より、新型コロナウイルスが全世界で猛威を振るい始めてから、早くも1年半が過ぎようとしています。感染拡大防止の観点から、私たちは多くの制限が強い中、先の見えない不安を抱えながら日常生活を送って来ましたが、今年6月から本格的にワクチン投与が始まり、これらの不安が徐々に解消されつつあります。しかしながら、より感染力が強いとされる新型コロナウイルスの変異株の広がりや、東京オリンピック・パラリンピックの開催による感染拡大への影響など、まだまだ多くの問題点を残しています。

人類とウイルスや細菌とのかかわりは深く、人類の歴史は感染症との闘いともいわれるほどです。14世紀にヨーロッパで発生し黒死病と呼ばれたペストでは、人口の3分の1が死亡したといわれ、1918年に発生したスペイン風邪は、世界中で5億人以上の人が感染し、2,000万人とも4,000万人ともいわれる多くの人の命を奪ってきました。

浄土真宗の宗祖である親鸞聖人は、今からおよそ850年前の平安時代から鎌倉時代にかけて、90年の生涯をおくられましたが、この時代もさまざまな飢饉や疫病の災害に見舞われました。その際には、餓死や病死の死体

があちこちに放置されていたことが記録されております。また、この時代は、国家から庶民に至るまで宗教が大きな影響を与えました。人々は、病気の治療や国家の安泰を願い、加持祈禱が行われましたが、災害を減らすことはできませんでした。そんな時代に、人びとの心を救おうと登場したのが親鸞聖人らの僧侶たちでした。しかし、その教えは、古くからある国家と結びついた仏教の考え方とは大きく異なっていたことから強い弾圧を受けました。一部の公家や武士だけが豊かで、ほとんどの人々が貧しくて生きていくことが苦しい時代、どうしたら人々が安心して幸せを感じることが出来るのか、その問題を解決しようと現れた僧侶の一人が親鸞聖人だったのではないかと思います。

先の見えない苦しみの中で、親鸞聖人が伝えたかったこと、それはまさにコロナ禍で先が見えなくなった私たちが学ぶべきことではないでしょうか。コロナ感染を防止するため、他人との接触を避ける今まで経験したことのない辛い生活が続いています。しかし、そのことに直面したがゆえに、今まで「あたりまえと思っていた人と人とのつながり」が、いかに大切なものであったかということに気づかされます。私たちは、自分を取り巻く多くのものに支えられ生かされています。また個人の権利が大切にされる幸せな時代を生きています。しかし、一方では個人の権利を主張し過ぎるがために、人と人とのつながりが、だんだん希薄になって来ているようにも思います。コロナ禍で他人と距離をとることが、自分のカラに閉じこもり、自分のことだけを考える孤独な人生を歩んでしまう結果となることもありません。

親鸞聖人は、いのちあるすべてのものをそのままに受け入れ、すくいに導いてくださる阿弥陀様に、「南無阿弥陀仏」と手を合わされました。そして、阿弥陀様の慈悲のもとで、お念仏に支えられて生きる人びとを、「御同朋・御同行」と呼びかけられました。コロナウイルスの世界的な大流行の中でも、常に寄り添ってくださる阿弥陀様のはたらきかけとお念仏に支えられ、自他ともに心豊かに生きることのできる社会をめざすことが様々な苦しみを超えていく糸口になるのかもしれない。

六日講長 小林昭磨 (大安町平塚 西岸寺)

寺院紹介 西教寺



▲木村智雄さん

西教寺の開基は、寛正6年(1465年)、木村十郎左衛門重恒が出家して教円と名乗り、天台宗の東禅寺廃跡を再興したことに始まると伝えられています。

寛永18年(1641年)に西教寺の寺号が許可され、享保12年(1727年)に現在地に堂を移しました。文政6年(1823年)には、東禅寺村に大火があり、村の7割が焼失しました。当寺も山門と土蔵を除き、全て焼失しましたが、寺宝については、人々の手早い運び出しで難を免れたそうです。その後、文政13年(1830年)に本堂が再建されました。平成28年(2016年)にはご門徒のご懇念により、本堂の屋根葺き替え、耐震工事、内陣修復等を行い、親鸞聖人750回大遠忌法要・修復落慶法要を勤修し、現在に至ります。

第14代の雲晴は絵筆をたしなみ、孔雀や虎の絵を描いていたようです。その絵は掛け軸にして、書院の床の間に掛けてあります。第4代の教応は、石山合戦の折、大阪に馳せ



▲本堂

参じたといわれており、その時の物と伝えられていた槍は戦時中に供出したそうです。同じく、梵鐘も供出しましたが、戦後に返却されました。毎夕、坊守や娘たちが時報の鐘をついています。

梵鐘には2つの穴が開いています。供出されたお寺の梵鐘のうち、戻ってきた多くは成分分析のため穴がけられていたそうです。また、当寺の梵鐘は爆撃により損傷したのではないかともいわれているようです。

私も幼い頃から梵鐘をついていましたが、穴があいている理由については、この原稿を執筆するまで知りませんでした。私は戦争を知らない世代ですが、戦争の遺産がこんな身近にあったのだと気づかされました。戦争を二度と繰り返さないためにも、平和への願いを受け継いでいかなければなりません。「世のなか安穏なれ、仏法ひろまれ」と日々、鐘を鳴らし続けたいと思います。

参考文献『藤原史話』

木村智雄 (藤原町東禅寺 西教寺)



▲内陣



▲掛け軸



▲梵鐘

佛壇
佛具

五大

旧社名 稲井屋 本店

桑名本店 稲沢店 四日市店
桑名本店 桑名市南寺町69 TEL 23-2918

お仏壇の1日クリーニング!

5千円~6千円<5日とリースナブルに
フリーニング、きれいにいたします!
お仏壇・お仏具はもちろん修理費も
お受けいたします

(有)日置佛壇店

三重県員弁郡東員町中上419-1
店舗 ☎ (0594) 76-0333 工場 ☎ (0594) 76-3072
営業時間 AM6:30~PM6:30 定休日 火曜日

■運動具
■事務用品
■学校教材教具
■開運印・実印
■銀行印・認印

しまや
(有) 嶋屋

いなべ市北勢町阿下喜
TEL 72-2151
FAX 72-3436

